CASBEE® 京都 新築

バージョン CASBEE京都-新築 独自システム2018(v.1.0)

独自システム評価結果

1 建物概要

建物名称	(仮称)Brillia京都松ヶ崎
延床面積	9,062.84 ㎡
用途	共同住宅 集合住宅,

BEE 1.6 A ★★★★

使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)

2 重点項目への取組度

キーワード	取組度
1 大切に使う	★★★★
2 ともに住まう	★★★
3 自然からつくる	★★★

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

1 大切に使う 合計点 29 /41

■長寿命化 合計点 13 /20

◇メンテナンスの容易性

Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア	3
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア	3
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア	3
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア	3
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア	3

(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)

＜自由記述＞

◇物理的長寿命

Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数	スコア	5

＜自由記述＞

◇社会的長寿命

Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	3
Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア	2

＜自由記述＞

■省資源 合計点 15 /20

LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア	3
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア	3
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア	5
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア	4

＜自由記述＞

◆独自加点項目 合計点 1 /1

LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で,「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており, うち地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち, 地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	○

2 ともに住まう 合計点 24 /42

■自然とともに住まう 合計点 11 /15

◇自然を感じられる計画

Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア	5
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア	3
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3

＜自由記述＞

■地域とともに住まう 合計点 9 /15

◇地域環境やコミュニティーへの配慮

Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア	3
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3
LR3/ 3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア	3

＜自由記述＞

■歴史とともに住まう 合計点 4 /10

◇歴史性への配慮

Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア	1
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア	3

＜自由記述＞

◆独自加点項目 合計点 0 /2

Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。	
LR3/ 3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している, または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを, 1以上実施している。	

3 自然からつくる 合計点 32 /50

■自然材料の利用 合計点 7 /15

Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア	1
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア	3
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア	3

＜自由記述＞

■自然環境の利用 合計点 23 /30

Q1/ 3.1.1 昼光率	スコア	5	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア	3
Q1/ 3.1.3 昼光利用設備	スコア	3	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア	3
Q1/ 3.2.1 昼光制御	スコア	4			
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア	5			

＜自由記述＞

◆独自加点項目 合計点 2 /5

LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	○
Q1/ 3.1.3 昼光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ, 軒, 庇等, 推奨内容の昼光利用設備を採用している。	
Q1/ 3.2.1 昼光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ, 軒, 庇等, 推奨内容の昼光利用設備を採用している。	
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/㎡・年以上となる場合。	○

4 低炭素景観の創出に関する評価

- ☐ Q1/3.1.3 昼光利用設備
- ☐ Q1/3.2.1 昼光制御
- ☑ Q3/1 生物環境の保全と創出
- ☐ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上
- ☐ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善
- ☐ LR3/3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策

低炭素景観 取組数 1／6項目

5 ライフサイクルCO_2とCO_2削減率

ライフサイクルCO_2	102.28	kg-CO_2/年㎡
(ライフサイクルCO_2参照値)	161.13	kg-CO_2/年㎡
CO_2削減量	-58.85	kg-CO_2/年㎡

ライフサイクル CO_2 削減率 +36.5%

6 ウッドマイレージCO_2とCO_2削減率

ウッドマイレージCO_2		kg-CO_2
CO_2削減効果		kg-CO_2

ウッドマイレージ CO_2 削減率 0%

: 「ウッドマイレージ計算書」から転記 : 自由記述入力欄